

ブルームバーグ市長記者会見（4月27日午後1時）

ニューヨーク市における豚インフルエンザ(Swine Flu)確認例の増加

4月27日午後1時、ブルームバーグ市長ほかが行った記者会見の概要以下のとおり。

ブルームバーグ・ニューヨーク市長

- ・ セント・フランシス高校（ニューヨーク市クイーンズ区）の検体から、CDC（the Center for Disease Control）が、豚インフルエンザと確認されたかまたは豚インフルエンザと思われる症例を45件確認した。うち28件は陽性反応であり、その疑いのあるものは17件である。また、100人以上の生徒とその家族が豚インフルエンザに似た症状を報告している。ニューヨーク市で確認された感染はこのセント・フランシス高校の一件のみであり、校外に拡散した証拠はない。セント・フランシス高校の生徒たちにはメールで質問票を送っている。
- ・ ブロンクス区トレモント地区のデイケア施設で豚インフルエンザに似た症状が見られた6人の児童すべてについて検査結果が出たが、6人すべて陰性だった。
- ・ インフルエンザに罹患した全員が快復したか、または快復に向かっている。
- ・ 心配して医院に行く人が増えているが、インフルエンザと疑われる症例はなく、メキシコと比較はできない。
- ・ 連邦政府はオバマ大統領の指示でマスクとタミフルを送り越したが、これは予防措置であり、一般の人にはマスクは必要ない。CDCは検査薬を市当局に追送しており、来週届く予定。
- ・ 病気になったら家にいること。そして咳をしたり鼻をかんだりするときは口と鼻を覆うこと。これは一部のケースであり、市民には、仕事や学校に行き、日常生活をしてほしい。そして来訪者は安心してほしい。
- ・ （EUの米国への旅行者への警告はについて質問されて）EUは為すべきことをしているが、必要とは思っていない。ここには私立校一件の集団感染しかない。

フリーデン衛生局長

- ・ ニューヨーク市で起きた症例はすべて学校で起きている。
- ・ 全ての患者の症状は穏やかで、快復しているか安定している。
- ・ 幾人かの家人が症状を訴えており、調査中である。
- ・ ほとんどの患者は旅行歴がなく、セント・フランシス高校で生じたと見られる。
- ・ 現在のところ、深刻な症例はない。でてきても我々は驚かないが、現在のところはない。
- ・ キー・メッセージは、インフルエンザの症状があってもその容態は穏やかで自宅療養できるということだ。
- ・ セントフランシス高校生徒の場合、少なくとも7日間、症状がなくなっても48時間は家にいることにしている。
- ・ （メキシコとの違いを質問されて）わからないが、現在のところかなり異なる。
- ・ （医院に行く判断基準を質問されて）高熱があり、呼吸困難があるときだが、そうでなければパニックを起こして医院に行くことはない。

クラーク下院議員(民、ニューヨーク州11区選出)

- ・ 警告を発する理由はない。ニューヨーク市はよく対応している。市民には、特に高齢者や幼児は、用心してほしい。メキシコからの旅行者には受動的モニタリング（聞き取り）をしている。